夕刊
磐城時報
廿五日
福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行　印刷人　岡田弘成
印刷所　加納活版所
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金卅錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

躍進記錄を示した 昨年度の庶民金庫
現在組合員一千名 預金四十萬圓を突破

信用組合平庶民金庫總代人會は二十三日午後一時から開き昭和十一年度事業に關係した各種事項を附議異議なく承認をうけ、その他の事項は

一、昭和十二年度借入金は十五萬圓を限度とする事
一、貸付限度は一人に對し擔保は三千圓、信用は二千圓、通じて五千圓とする事
一、準備金、積立金等は事業資金に運用する事

等を可決し、任期滿了の監事は鈴木重助氏以下再選重任と決定した。同組合は諸橋久太郎氏が組合長に就任し、諸橋敬一郎氏が主事として實務を握るやうになつて以來加入者續々あり、十一年度中には新加入者八十五名この口數三百八十一口を增加し、轉任等による脫退者の分を差し引いて現在組合員九百二十名、この口數四千七百八十二口といふ盛況を示し、名實共に『庶民金融機關』としての機能を發揮し得るに至り、町民の蒙る利益も昔日の比ではなく、組合の貯金を見ると前年度末は三十七萬九千二百七十三圓三十五錢であつたものが、十一年度には預入百十九萬一千五百六十二圓八十四錢、拂戻一百十五萬千百七十二圓五十六錢で現在預金四十一萬七千六百六十三圓六十三錢である。貸付方面を見ると、十年度は千三十二件、三十四萬四千九百五十八圓二十一錢であつたのが、十一年度は千三百三十九件で三百餘件を增加し、金額に於ては五十六萬一千六百三十五圓八十錢即はち二十二万圓餘の激增ぶりである。而も回收成績極めて良好で十一年度末の貸付額は百八十九件、金額三十三萬四千三百二十六圓四十二錢である。即はち各方面から見て同組合は完全な金融機關として躍進の記錄を示してゐる事は愈々將來を期待せしめる所以である。十一年度の利益金は八千百六十七圓六十五錢でこの處分は左の如く決定した。

一、二千四十七圓四十錢　準備金
一、八百三十圓　特別積立金
一、四千二百三十圓廿五錢　配當金
一、五百圓　退職積立金
一、五百六十圓　役員償與金

平署の犯罪件數 東北で第二位
三市を遙かに凌駕 四千件を突破

平署昨年度に於ける犯罪件數は四、三五三件で、送致件數は九一三件で前年度に比し前者に於て六三二件增送致數は一四三件減少であるが、何れも郡山、若松、福島三署を遙かに凌駕してゐる。仙臺署に次ぎ東北に於て第二位を占めてゐる、尚ほ他三署の送致件數は左記の如くである。

郡山五二六（昨年は六八五）若松六六五（六〇六）福島四六五（四九八）

▲清勝丸無事

既報廿一日未明房總半島東南東一八二〇哩の海上で鮪漁中機關に故障を生じSOSを發した江名町發動機船清勝丸（一二八噸）からの無電を千葉縣野島岬三浬の洋上で接受した本縣指導船磐城丸は付近に遊戈中の愛知縣白鳥丸、千葉縣ふさ丸の應援を得て救助に向つたが、清勝丸との距離は七十浬もあつて全速力で急行するも二晝夜を要し、且つ付近の海上は時化模樣で非常に難航を續けてゐる旨廿二日夜小名濱町水産試驗場に入電あつたので試驗場では清勝丸の機械製作所たる東京池貝鐵工所に對し清勝丸と無電連絡により應急修理の手配方を依頼した結果二千浬の洋上にある難破船と東京の機械工場との間に無電連絡による劃期的な機關修理を進められ廿三日朝五時に至り清勝丸は遂に一時間五浬の速力で自力航行が出來るやうになり磐城丸と漸次接近しつゝあつて廿四日朝までには救助出來る見込である。

なほ清勝丸は廿日分の食糧と燃料を積込んでゐるので沈沒さへしなければ乘組員の生命には別條はない見込である。

盲人開眼費用に 釜屋で五百圓寄附

平町出身三井榮一氏は既報の如く盲人の開眼手術の費用として一千圓を寄附したが、今度は釜屋諸橋久太郎氏が五百圓を寄附した。

住み込んだ翌朝 酌婦情夫と逃走
前借五百圓踏倒し

江名町仲之作料理業友榮亭事阿部春吉方酌婦埼玉縣北足郡生れ友光たつ（二七）は去る二十日茨城縣久慈郡本田村料理業正月亭から前借五百六十圓で鞍替して來たが翌二十一日年齡三十歳前後の情夫らしい男と共に逃走したので二十四日平署に捜索方を願ひ出でた。

▲拔天氏畫會

漫畫の長崎拔天氏作品頒布會は三十一日平町マルトモホールに開く。

漁船から 海上に轉落

小名濱町字古港漁業三代義勝方雇入相馬郡中村町生れ木村篤（十九）君は二十三日午後六時頃大勝丸に乘り込み小名濱三浬の沖合で操業中繩に足をからんで海中に轉落溺死した。

自轉車諸共 少年を轢き殺す

植田町金畑一四自動車運輸業佐藤久四郎方運轉手赤津翁人（二六）は昨二十四日午後一時半頃米二十俵と麥二十六俵を滿載したトラックを運轉小名濱町横町地内を疾走中誤つて横合から自轉車に乘つて來た同町上町自動車修繕業小野三郎方雇人中島三七十（十六）を轢き倒し即死せしめた。

最近の内郷村に 貸家激增
廢燈は一ヶ月三百個位

磐城炭礦の住吉、綴兩坑の出水に災はされて坑夫の異動甚だしく宮、綴兩散宿所への廢燈、新設申込多く多忙を極めて居るが、社外の廢燈は一ヶ月三百戸内外で新設は僅かに九十戸内外であるが、廢燈者は社外から會社長屋へ轉住するもので約半數は他會社へ轉坑する現狀を示めして居るが、出水以前は内郷村綴、宮、白水方面に殆んど空間なく家賃の糶上げて競爭的に借家し又各飯場では空間と見れば借家契約を結んであつた程で殆んど住宅の借家には困難であつたが、最近社外住宅の貸家、貸間札は至る處に貼られて居るが、宮方面の家主は二割方の家賃値下げをして借主に呼びかけて居るが、とんと借主の付かぬには悲觀して居ると。

▲醫師法違反

小名濱町賣藥行商千葉善四郎（四八）は昨年十一月泉村下川小野クラ（二三）外數名に怪しげな診療をなした上投藥したので醫師法違反として平區で罰金四十圓に處された。

村上町議 控訴して懲役

小名濱町新町魚肥製造業村上淨代二（五二）の賭博事件の控訴公判は二十三日福縣地方裁判所に於て懲役二ヶ月、罰金百圓の判決言渡しがあつた。

關根庶務課長 起訴さる

山田文一氏事件に連座して保釋出所中の平稅務署庶務課長關根清四氏は二十三日身柄不拘束のまゝ起訴される事になつた。

乞食を轢く 古河專用線で

二十四日午前九時頃内郷村字高坂地内好間古河炭礦專用線を進行中の貨車に跳ね飛ばされて重傷を負つた老婆があるので平署で調べると、この婆は齋藤コマ（八〇）といふ乞食でツンボのため警笛が聞えなかつたためであると。

煙りの輪

記者は内郷村の一角に、廣田内閣の後繼として宇垣閣下に首班の大命降下の新聞を手にして、不途こんな過去の事が呼び起されて、なんとなく嬉れしい感じがした。たしか昭和初年と思れる、陸軍大臣公職を退て國津驛山の中復にき閣下の別莊へ東海新報社の小生としてお伺ひし[illegible]直ちに應接間に通[illegible]對面の御挨拶を[illegible]く申上げで用談を[illegible]閣下はお茶かはりだよ[illegible]つしやてウイスキーを御走された。堂々たる体[illegible]口唇から流れ出る言葉に全く情實に富んだもの[illegible]る。歸るに臨んで思ひ[illegible]て、こんな事を言つた[illegible]下整理におなりになれば[illegible]莊を新築されるでせうな[illegible]には閣下も笑顔！トウ〳〵内閣の首班として大命は[illegible]下し其の時より宿望十餘[illegible]

ライトインキ
大景品付
特賣大賣出し
ニオンス入（金三十錢）御買上の方へ抽籤にて左記景品[illegible]
一等　ライト萬年筆……一本
二等　ライト二色シャープペンジル　一本
三等　ライト自由日記……[illegible]
四等　セルロイドポケットカレンダー　一[illegible]

魚清自慢の
なべ料理

鯛ちり　五十錢　かきなべ　三十錢
鯛なべ　五十錢　ねぎまなべ　三十錢
鱈ちりなべ　三十錢　煮込なべ　三十錢
ちりなべ　三十錢　鳥なべ　三十五錢
はもなべ　三十錢　牛なべ　三十五錢
あんこはべ　三十錢　豚なべ　三十五錢
いかなべ　三十錢　吸なべ　三十五錢
よせなべ　三十錢

えび天丼……三十錢
えびフライ……二十五錢
えび天ぷら……二十五錢
あんこもち……十錢
かき酢……二十錢
かきフライ……二十錢
キントンあります

平三警察署通り
魚清食堂
電話六三三

優秀なる専門技術
完備せる試験設備
モートル
變壓器修理工場新設
平町月見町
合資會社　佐藤鐵工所
電話三六二番

外科　一般
內臟外科　レントゲン科
泌尿器科
北川外科
平町新川町二七（諸橋醫院跡）
（血液檢査毎日）
イツデモ入院出來マス
醫學博士　北川芳夫
技師　小林良次
電話四六四番

豆炭特賣
一、品川豆炭　大袋五貫匁入　金七十五錢
小袋壹貫匁入　金二十錢
品質豆炭界ノ最良品
壹袋カラ配達致シマス、ドラメ御用命願ヒマス
平驛前
電話三七番　阿部石炭商店

かまぼこ製造
折詰特選
お惣菜用さつま揚・吉原揚
平町一丁目
吉原商店
電話一四一番

魚沼すから
ヒラマル凍魚
鯛　マナ鰹　ワカサギ
エビ　甘鯛　帆立貝
白魚　カナ頭　貝焼
日本水產手特約（電三八・三六番）
配達一尾一箱
御小賣　平製氷會社
卸賣　魚岡屋
四丁目五二八番

◎新鮮な冷凍貝燒あります
吉田眼科醫院
平町紺屋町（電話六八番）

互融會事業近況
融通（至十二月卅一日）現在
報告　五、九三七口
會員數　四、〇一〇戶
世帶數　五三・九八二・二錢
積立金　一、一三一口
融通數　一七・二四八・三〇
融通金額　七〇・〇七五・〇〇
融通金回收高
太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所　福島縣平町搥鉾小路一番地
小名濱方部　湯本方部
小名濱町古港　湯本町天王崎
菊田方部　双支部
植田町臺町　原町東一番町

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ寄仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ奬勵
一、小資本金ノ相互融通

醬油と味噌
福島縣平町
明治生命
磐城代理店　山崎與三郎
電話（營業部專用一〇番　一般用二七番）
振替東京一九七五五番

干やなぎいか切込の御注文は
是非仙魚店へ
美味：体裁優美は當店のモツトーです
鰹節・鹽辛　鮮魚盛出し
仙丸
電話六六二番

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
（入院のお需に應ず　自炊の便あり）
平町田町藤田女學校前（電話五八番）

開院
皮膚科專
泌尿器科
花柳病科門
診療　午前八時ヨリ
時間　午後九時マデ
平町田町（山內醫院跡）
入院隨意
江尻醫院
電話六九一
醫學博士　江尻伊三郎

平驛前
昭和タクシー
電話三四三〇番

平町田町（電話五一三番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科　レントゲン科